

<< 北品川禁煙通信 >>

第19号：タバコの害、しみじみ…

◇ 生きていてよかった・・・



元お笑いコンビ『ゆーとぴあ』のホープさんは、7月8日に都内で記者会見し、今月3日に左肺の癌の手術を受けていた事を明らかにしました。左肺にあった約8センチの腫瘍を約7時間の手術の末に摘出し、7日に退院したとのこと。タバコを1日2箱吸うヘビースモーカーでしたが、6月に入ってから咳が止まらず血痰も出たため病院で検査を受けた結果、肺に癌が見つかりました。「最初は手術するつもりはなかった。芸人だから自然に逝こうかな、と。でも先生から『1年もたないだろう。半年ちょっと』という余命宣告に大ショックをうけ、先生に泣きつき『何とかお願いします。手術の方向でおねがいします』と。人間って弱いものですね」と、命が惜しくなったことを打ち明け、「入院して手術して新しい命をいただいたという感じです。これはまぎれもなく事実です。生きていて本当に良かったです」と涙を流しました。

「(術後)声がかんなんに出るとは思わなかった。これがうれしかったですね。(やはり喫煙していた)談

志さんも最後は声は出なかったでしょ」と喉頭癌でなくなった立川談志さんの闘病生活を振り返り、しみじみ。『『声を出してください』って言われたとき、『あーっ』って言ったとき、涙がこぼれましたね。芸人としてやっていけるという…』とほっとしたような笑みを浮かべました。

「酒とタバコは芸人のステータスみたいな…。『これがなかったら芸人じゃねえよ』と弟子にも言ってましたが、今は弟子に謝りたい。俺が悪かったと…。命を大事にしろと言いたい。これは変わりましたね。」と、しみじみ語りました。とてもいい記者会見だったと思います。

◇ 美容の専門家なのに・・・



「造顔マッサージ」などで有名な美容家の田中宥久子さんが本年3月19日、肺癌のためにお亡くなりになりました。黒い帽子がトレードマークで自らを「ビューティー・アーティザン(美の職人)」と名乗り、テレビ・ラジオ、講演会、著述などで広く活躍されていました。ただし、その美の専門家たる彼女が、実は喫

煙者であったという事はあまり知られていません。喫煙が美容に悪いという事は常識となっているにも拘らず、です。彼女ほどの『美の専門家』が自らの喫煙を止められずに肺がんで亡くなるという事はなんとも皮肉なことです。逆に言うと、それほどニコチン依存症は恐ろしい病気であるということ。彼女もタバコの犠牲者と言えます。ご冥福をお祈りします。

◇ 未成年喫煙防止キャンペーンの意味するもの



街中や新聞紙上などで時々目にするのがあると思います。この「未成年喫煙防止キャンペーン」。タバコ会社や組合は積極的にこれを主催または後援しています。彼らは、こうした活動を「地域社会に対する貢献」として誇らしげにホームページなどで宣伝しています。しかし、本当にそうでしょうか？

タバコは法律上未成年は吸ってはいけないことになっていますが、皆さんご存知の通り、多くの喫煙者は未成年のうちから吸い始めます。これは、タバコを吸うという行為が自分は大人なんだという周囲へのメッセージとして非常に分かりやすいからです。特に男子は喫煙という行為に「男らしさ」を重ねてタバコに手を出すのです。そして、ニコチン依存は若い年齢から喫煙すればするほど重症になります。タバコ会社ではこうしたエビデンス(科学的根拠)をすべて承知しており、タバコ販売の戦略を立てています。彼らが未成年喫煙防止キャンペーンを行う目的は、『ダ

メ』と言われると却ってやりたくなる、この思春期の子供の心理を逆手に取っている事がまずひとつ。そしてもうひとつは(本当はそうして欲しいけれど)未成年での喫煙をしなくても大人になってから思う存分吸って欲しいというキャンペーンに仕立てているのです。

全国の地方自治体や教育委員会の多くは、子供にタバコを吸わせたくないという理由から、あまりよく考えずに、JTを始めとするタバコ産業の資金的及び人的協力を得てこの種のキャンペーンを行っていますが、実はその裏にはタバコ産業側の周到な戦略が存在し、その片棒を担がされているに過ぎないのです。この事に早く気付いてほしいと思います。世界保健機構(WHO)の国際条約であるタバコ規制枠組条約(FCTC)ではタバコ会社の協賛やスポンサー活動を厳しく禁じていますが、このタバコ産業の参加する『未成年喫煙防止キャンペーン』もFCTCに違反しています。タバコ産業のすることには必ず営利的な目的があります。彼らはなんとかしてターゲットである子供に近づきたいのです。

因みに、こうしたキャンペーンのスローガンを「大人も子供もタバコを吸わないキャンペーン」としたらどうでしょう。タバコ産業は絶対に協力しません。

全国の教育委員会の方々には是非『タバコに手を出さないキャンペーン』或いは『一生タバコを吸わないキャンペーン』をタバコ産業抜きでやって頂きたいと思います。ただし、その前に、「先生がタバコを吸わないキャンペーン」が必要かもしれません…。